

ノーベル賞受賞者 J.ワトソン博士ら来訪

リリース日 2008.10.27

去る2008年10月20日、DNAの二重らせん構造を解明し1962年にノーベル生理学・医学賞を受賞したジェームズ・ワトソン博士と、RNA研究の第一人者であるジョーン・スタイツ博士が、自然科学研究機構の招きにより来日しました。

今回の来日は、日本学術振興会の支援を得て同機構が企画した「分子生物学フォーラム」での講演や研究者との交流を目的としたものです。



フォーラム(東京)



研究室を訪問(岡崎)

10月22日には東京大学安田講堂(東京都文京区)で、10月24日には岡崎コンファレンスセンター(愛知県岡崎市)で、それぞれフォーラムが開催されました。

ワトソン博士らの講演を聴こうと、一般の市民から、研究者、学生に至るまで多くの参加希望があり、両会場合わせて1,400名の参加者がつめかけ、世界的な研究者である両博士の講演に熱心に聞き入っていました。

両博士は、このフォーラムの前後に、東京大学の研究室を訪問し、研究者と意見交換をしたほか、本機構の基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所の研究室を訪問し、各研究所の研究者との意見交換会にも出席しました。

ワトソン博士らは、若手研究者からの様々な質問に対して、自分の経験を交えながらアドバイスをを行い、これら若手研究者の研究意欲に大きな刺激を与えて、26日に日本を離れられました。



若手研究者との意見交換会

問い合わせ先:

自然科学研究機構 企画連携課 研究支援係

E-mail: nins-kenkyu@nins.jp